

写真下は足場が組まれ防護幕が張り巡らされた1号館。
同左は1号館外周部の軒天部分を張り替える作業員



良質な学修環境の維持に向けて

長期修繕計画スタート 初年度は1号館から

1～3号館を中心とした本学施設の長期修繕計画がスタートしました。1年目となる本年度は、最も古い1号館が主な対象となります。既に7月から建屋周囲に足場や幔幕が張り巡らされ、外装や屋根部分の補修が行われています。

本学の施設は、開学時から1号館に始まり2号館、3号館、アリーナ、レストランと順次整備されてきました。その一方で、1号館は築21年、2号館は築16年を迎えており、年々、雨漏りや空調などのトラブルが増加し、復旧に時間がかかり緊急修理のコストも増えていました。

この課題に対応するため、令和3年度、中長期にわたり計画的な施設の予防修繕を実施し、コストを抑制しながら本学施設を維持する対応を検討。令和4年度に全施設の現状を調査し、今後30年間を見据えた中長期修繕計画がまとめられました。

中長期修繕計画1年目となる令和5年度は、外

装の予防修繕が喫緊の課題であることから、1号館の一部が7～10月と12～3月の2期、2号館の一部が11月に修繕作業を行う予定です。令和6年度以降は、外装だけでなく空調や電気設備などの予防修繕が計画されています。ただ、中長期修繕計画をそのまま進めてしまうと毎年相当な費用を要するため、本年度同様に緊急度・重要度・作業効率性などを検討し、計画の一部見直しも進められています。

平緒泰弘・総務課長は、「本年度の修繕コストは約1億円と高額ですが、当時の建設費60億円を超えると試算される施設維持費に対して様々な検討を行いコストを抑制した結果です。施設を使用しながらの作業となり皆様にご不便をおかけして申し訳ありませんが、ご理解とご協力をお願いします」と話していました。(NL編集部)

目標見据え 真剣に高校生

推薦入試対策「チャレンジ熊保大」

本学の推薦選抜対策講座「チャレンジ熊保大」が8月27日(日)、50周年記念館で開催され、参加した高校生たちは、予備校講師の指導を真剣な表情で受けていました。

同講座は、英語、国語、数学Ⅰ・Aの筆記試験対策として毎年開催しており、今回は同伴者を含め約240人が参加。熊本県内の大手予備校「壺溪塾」講師の内博文氏(英語担当)、瀬井裕規子氏(国語担当)、平島善幸氏(数学Ⅰ・A担当)が過去問を中心に指導にあたりました。会場は、高校生たちの熱気と緊張感に包まれていました。

同日は、同伴した保護者などのために、大学説明会や大学見学ツアーも企画。見学ツアーでは、本学職員のご案内で1～3号館の実習室などを見て回りました。(入試・広報課)



高校生の熱気に包まれた「チャレンジ熊保大」の会場

手携え こどもの発達支援を 西里小教諭と初の交流会

ことばの相談室

地域子ども支援として言語聴覚療法を提供している本学「ことばの相談室」（言語発達臨床教育研究室）と西里小学校の初の交流会が8月30日（水）、3213実習室で行われ、同校の教諭20人に相談室の概要説明やスタッフとの意見交換などを通じ理解を深めてもらいました。

同相談室は平成30年に発足以来、ことばの遅れ、読み書きの困難、発音の不明瞭、吃音などの子どもたちの発達を、言語聴覚士が家族に寄り添いながら支えてきました。今回の交流会は、近隣の幼稚園保育園や小学校の協力を得ながら支援の輪を広げようという取り組みの一環として、松尾朗講師が企画したものです。

同日は、相談室の役割や担当教員、施設設備、対象とする症状などについての説明があり、井崎基博准教授が実際に子どもと接している場面を動画で紹介しました。意見交換では、支援にかかる費用や実際に支援している子どもの数などについて質問があったほか、小学校の現状についての報告などもありました。交流会後、参加者は永友真紀講師による読み書きに困難を抱えた小学生の支援の様子も見学しました。

初の交流会を終え、井崎准教授は「支援の手が行き届いていない児童がいることを先生に気づいてもらえた。協力関係を拡充し、地域の子育て支援につなげたい」と話していました。（入試・広報課）

保育園での支援について説明する松尾講師



模擬授業、施設見学…大学ってどんなところ？

熊本西高1年生250人「アカデミックインターンシップ」

熊本西高校の1年生約250人が8月28日（月）、30日（水）、本学を訪れ、大学の授業を体験しました。同校では、大学や専門学校での授業・実習を通し、高校の学習活動に対する興味・関心を高めるとともに、将来の職業との関係を学ぶことなどを目的とした「西高アカデミックインターンシップ（NAIS）」を、熊本県内の私立大学（7大学）と専門学校（2校）の協力を得て行っています。

この日、生徒たちは50周年記念館で大学の概要について説明を受けた後、健康・スポーツ教育研究センタースタッフの案内でアリーナを見学。その後、各自希望した学科専攻の模擬授業を受講しました。

作業療法士の仕事に興味があるという野上結愛さんは、生活機能療法学専攻の模擬授業に参加。「理学療法士と同じと思っていたけれど、違う専門職だとわかった。ゆくゆくは作業療法士を目指せる進路選択をしたい」と目を輝かせていました。また、医学検査学科の模擬授業を希望した谷口心春さんは

「（データをもとに）患者さんの状態を瞬時に判断し、治療につなげるのはすごいと思った。（模擬授業は）今後の進路決定に響きます」と興奮気味に話してくれました。（入試・広報課）



アリーナを見学する熊本西高の1年生

銀杏アラカルト

◆コミュニケーション力向上へFDセミナー 「教員の学生とのコミュニケーション力アップ」をテーマにしたFDセミナーが8月29日（火）、150IM講義室で、熊本大学大学院教育学研究科の黒山竜太准教授を講師に迎えて開かれました。黒山准教授は、教員と学生の間には「評価者－被評価者」という特別な関係性があるため、ディスコミュニケーションが起こりやすいと指摘した上で、教員

は「自分の働きかけを学生がどう感じているか」に十分配慮する必要があると説明。また、教員側の視点を学生に押し付けず、学生の考え方や捉え方、さらには学生の行動の背景を理解し、信頼関係を築いていくことが重要であると話しました。セミナーでは、具体的な事例を題材としたグループ・ディスカッションなどもあり、参加者間で活発な意見交換が行われました。（入試・広報課）

週間行事予定（9月9日～15日）	
9 / 13（水） 15:30～	利益相反に関する研修会（1300L講義室）
9 / 14（木） 13:30～	学術講演会（1300L講義室）